

事業名：国際金融センターとしての地位確立

とりまとめコメント

本事業は「金融創業支援ネットワーク構築に係るモデル事業（実証実験）」、「英語ワンストップ対応」、「英語発信力強化」、「海外も含めた資産運用業の調査」といった4つの事業により構成されるが、それぞれの改善の方向性を関連付けるなどして、事業の効果を高める工夫を継続してもらいたい。

特に、モデル事業については、コロナ禍後の平常時において真の費用対効果を確認できる仕組みづくりを行っていくことが重要である。そのうえで、令和5年度の実績も踏まえ、事業内容を十分に検討すべきである。

本事業のアウトカムについては、アクティビティやアウトプットとの関係が必ずしも明確になっていない。そのため、まずは目指すべき国際金融センターの姿及び時期を早期に明確にしたうえで、本事業の開始から今までの間における国際金融センターとしての立ち位置の向上にどのように貢献したのかを示すような指標を構築していくことが望ましい。

外部有識者の主なコメント

- 事業概要が4つに分けて記載されているが、これらを関連付けて事業の効果を高める工夫を継続してもらいたい。特に4項目の「改善（の方向性）」を関連づけることが特に重要である。
- 事業の性質上、短期的な効果が重要となるので、まずはアウトプットの数を増やすための工夫、次いでアウトプットを短期アウトカムへと結びつけるためのより一層の工夫が望まれる。
- モデル事業は、コロナ禍で行われてきており、平常時での真の効果を計測することは難しいと思われるが、コロナ禍で得られた経験を整理し、コロナが落ち着いた今、真にどのような効果を生み出しているのか、改善点は無いか、費用対効果を確認できる仕組みづくりが重要である。
- コロナ禍の影響もあり、単純に比較することはできないものの、拠点開設サポートオフィスを通じた業登録・届出の件数は、令和4年度でコロナ禍前に戻ったという水準であり、モデル事業の効果がでているのか疑問がある。令和5年度の実績にもよるが、モデル事業については、その内容を十分に検討し、見直す必要があるのではないかとと思われる。
- 事業開始から今までの間に、国際金融センターとしての立ち位置がどのように変化したのか、本事業がどのようにその立ち位置の向上に貢献したのかを示す指標の構築が望ましい。一つに定まらない場合は、参考指標とすることも考えられる。また、EBPMの観点から、その指標に対して、インプット、アクティビティ、アウトプットがどのように貢献していくのかを、さらに明確化していくことが望ましい。
- 成果目標である「海外金融事業者の日本進出」は、中間段階の目標に過ぎない。したがって、モデル事業によって進出した事業者のビジネスの実態を調査し、国際金融センターとしての地位確立に繋がる事例を発掘し、今後の施策に活かすとともに効果的な事業となるように見直しを行っていく必要がある。
- 国際金融センターとしての地位確立のために必要な法律制度、立地条件、ビジネス環境などについて独自の評価指標を設定して、主要国の国際金融センターと比較する必要がある。そのためには、内外の金融事業者へのアンケート調査やヒアリングを行うことも考えられる。
- 現状の長期アウトカムは、事業開始前における海外資産運用業者等の新規登録件数をふまえて設定されている。しかし、本事業の目的は、世界に開かれた国際金融センターを実現することであり、そのために、海外資産運用業者等の日本拠点開設を後押しすることにある以上、目指すべき国際金融セ

ンターとしての姿や、それを実現すべきタイムスパン等を前提に、計画を立て、アウトカムを設定する必要があると思われるところ、目指すべき国際金融センターの具体的な内容や、それを実現する時期が明確になっていない。早期に目指すべき国際金融センターの姿及び時期を明確にしたうえで、それを目指すためのアウトカムを設定する必要があると考える。

- アクティビティ、アウトプット、アウトカムの関係がわかりにくい箇所がある。因果関係を明らかにした形で、事業による効果を計測すべきではないか。
- アウトプットの「英訳ページ枚数」は、枚数が多ければよいという評価はできないので、適切ではないように思う。